



授業科目	看護学概論				
担当教員	副学院長	病院に看護師として13年、看護管理者として6年勤務			
履修時期	1学年 前期	単位数・時間	1単位 30時間		
授業目標	1. 看護活動の本質を理解する。 2. 看護師の責務から看護の役割と機能を理解する。 3. 看護の法と責任をもとに看護倫理を理解する。 4. 看護活動の場を理解し、保健・医療・福祉における看護師の役割を理解する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1	ワークブックで学ぶナイチンゲール看護覚え書	看護学概論で何を学ぶのか 看護の本質 看護とは何か考える 私の考える看護観	講義	課題レポート VTR学習
	2	看護の基本となるもの	看護の主要概念 看護の歴史 ナイチンゲール/ヘンダーソン/マズロー	講義 GW	
	3		看護の対象である人間とは ホメオスタシス、ストレス、欲求、ライフサイクルと発達 課題、生活者	講義 GW	
	4		健康の概念・健康観 健康の定義 WHOの健康・ウェルネスの概念	講義	
	5		環境の概念・人間に及ぼす影響	講義	
	6		看護の定義 看護職能団体による看護の定義 看護業務基準	講義 GW	
	7	看護倫理の基本	看護倫理の基本 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理	講義	
	8		倫理綱領と倫理の原則と看護師の役割（説明責任・倫理的配慮・権利擁護（アドボカシー）、エンパワメント）看護者の倫理綱領 条文1～7	講義	
	9		倫理綱領と倫理の原則 看護者の倫理綱領 条文8～15	講義	
	10		医療における倫理的ジレンマ		
	11		看護職の養成制度/教育キャリア開発	講義 GW	
	12	実践に生かす看護理論19	看護理論家とその考え方 ウィーデンバック/オーランド/トラベルビー看護理論家とその考え	講義	
	13		看護理論家とその考え方 ペプロウ/オレム/ロイ看護理論家とその考え方	講義	
	14		ケアとは/看護におけるケア 看護実践とその質保証に必要な要件	講義	
15		まとめ 筆記試験			
テキスト参考文献	系統看護学講座 専門I 看護学概論 基礎看護学①, 医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会 徳本弘子：ワークブックで学ぶナイチンゲール看護覚え書, メチカルフレンド社 城ヶ端初子：実践に生かす看護理論19, サイオ出版 坪倉繁美：看護倫理の基本, サイオ出版				
授業方法	講義・GWを中心として行う				
評価方法	終講時に筆記試験を実施する 筆記試験90点、課題点10点（提出期限が守れない、内容不足の場合は減点）				
履修上のアドバイス	グループ学習を多く取り入れているので、積極的な姿勢で臨むこと				



授業科目	基礎看護学技術 I (看護記録・報告、看護過程)						
担当講師	主任専任教員 / 訪問看護ステーションに看護師として 6 年、病院で 10 年勤務 専任教員 / 病院に看護師として 14 年勤務						
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 30 時間				
授業目標	1. 看護記録・報告の意義と方法を理解する。 2. 看護過程の意義と方法を理解する。						
授業計画	回	事前学習	内容	方法	教員	事後学習	
	1	看護記録とは	I. 看護記録 1. 法的位置づけ 2. 目的・意義 3. 構成要素 4. 記載・管理の留意点	講義	専任教員	記録から看護記録を考える	
	2	看護過程とは	II. 報告 1. 目的・意義 2. 方法・留意点 3. 医療事故と看護記録 III. 看護過程 1. 看護過程の意義と構成要素 2. 基盤となる考え方	講義			
	3	アセスメントとは	3. アセスメント 1) アセスメント 2) 情報収集・整理	講義		事例の情報整理	
	4	情報の意味の検討	3) 情報の整理の実際 4) 情報の意味の検討 (アセスメント)	講義		事例のアセスメント	
	5	関連図とは	4. 問題仮説の推論・統合 1) 全体の把握 2) 関連図 5. 問題の特定 1) 問題の表現 2) 優先順位 3) 問題リスト作成 4) 問題リスト作成の実際	講義	主任		
	6	看護診断とは	5) 看護診断 (NANDA I・ゴードン)	講義		看護診断名の確認	
	7	計画立案とは	6. 計画 1) 目標設定 2) 計画の立案	講義			
	8	看護記録とはの振り返り	7. 実践・評価 1) SOAP 2) フローシート 3) 評価・修正 4) 経過記録の実際 5) 評価・修正の実際	講義		経過記録 フローシートの完成	
	9	事例の関連図	演習) アセスメントの実際①② 身体的な看護の概念枠組みに焦点を当てた事例 精神的な看護の概念枠組みに焦点を当てた事例 社会的な看護の概念枠組みに焦点を当てた事例		講義 演習	教員	
	10						
	11	病態生理について	演習) 関連図			主任	事例の関連図作成
	12		演習) 看護問題の特定 看護診断		事例の看護問題の抽出		
	13		演習) 経過記録の書き方				
	14	事例に基づいた知識の確認	演習) 患者に生じた症状や兆候から状態・状況を明らかにする事例	演習		事例に基づいた経過記録	
15		筆記試験 まとめ			主任・教員		
テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護学技術 I, メチカルフレンド社 2. ハンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント, ヌーヴェルヒロカワ 3. NANDA-I 看護診断 (定義と分類) 2015-2017, 医学書院 4. 検査値早わかりガイド, サイオ出版						
参考文献	1. ベストティーチャーが教える看護過程, 日総研 2. 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図, 医学書院						
授業方法	講義、演習						
評価方法	筆記試験 (90 点)、課題 (10 点) で評価する 課題提出期限内に提出できなかった場合は総合点より 3 点減点とする						
履修上のアドバイス	看護過程は、患者により良い看護提供するための大切な技術です。そのため、自主的に自己学習や演習に臨み練習を重ねることが必要になります。この技術は、基礎実習 I-2 から実習で 3 年間実施しますので、看護過程の段階一つ一つ確実に理解して学習を進めましょう。						



授業科目	基礎看護学技術Ⅱ（コミュニケーション・安全・感染予防）				
担当講師	教務主任 / 病院に看護師として 15 年勤務				
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 15 時間		
授業目標	1. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解する。 2. 看護における安全の意義と安全を点検する側面を理解する。 3. 感染予防の意義とその対策を理解し、方法を習得する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1 ～ 2	参考文献の感想をまとめる	コミュニケーション ・コミュニケーションとは ・基本姿勢 ・対人関係プロセスとしての看護 ・看護理論とコミュニケーション ・看護とコミュニケーション	講義 演習	
	3	生活の中での自分の事例を記録	プロセスレコード ・プロセスレコードとは/分析のしかた ・自分の体験をプロセスレコードに分析	講義 演習	
	4		ロールプレイ ・ロールプレイとは ・事例に基づき役割を演じ、分析する	講義 演習	分析後のまとめ
	5		看護における安全 ・安全の意義 ・安全を点検する側面 （ヒューマンエラー/看護事故の構造/事故防止対策） ヒヤリハット ・ヒヤリハットとは/分析方法 ・ヒヤリハット報告書の実際	講義 演習	
	6	感染予防に関する用語の定義と感染経路からみた感染源 ・芽胞について調べる	感染と感染予防策の基礎知識 ・スタンダードプリコーション/感染経路別予防策 ・感染予防における看護師の責務と役割 感染源への対策 ・洗浄/滅菌/消毒法 感染経路への対策 ・手洗い/隔離法/感染性廃棄物の取り扱い/針刺し事故防止	講義	DVD 視聴の上、日常的な手洗い・速乾性擦式手指消毒薬による手指衛生の練習
	7	防護用具の着脱、滅菌物の取り扱いについて DVD 視聴	感染経路対策 ・防護用具の着脱(手袋/ガウン/エプロン) ・滅菌物の取り扱い：無菌操作 （滅菌物器材の確認方法/滅菌パックの開き方/鑷子の取り扱い/綿球の渡し方・ガーゼの取り出し方/滅菌手袋の着用）	演習	滅菌物の取り扱い(無菌操作)の練習
	8		終講試験		
	テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メチカルフレンド社 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術，医学書院 3. 看護の基本となるもの，日本看護協会出版会			
参考文献	1. 伊藤守：この気持ち伝えたい，ディスカバリー社 2. 大森武子：仲間とみながく看護のコミュニケーション・センス，医歯薬出版				
使用教材	医療器材（撮子、ガーゼ、綿球、滅菌手袋、速乾性擦式手指消毒薬、アイソレーションガウン、プラスチックエプロン、）				
授業方法	講義・演習を中心に行う				
評価方法	終講試験（90 点）、課題（10 点）で評価する 課題提出遅れは総合点から 3 点減点とする				
履修上のアドバイス	事前、事後学習を必ず行い、提出期限を守ること 演習は、グループ間で協力して行うこと				



授業科目	基礎看護学技術Ⅲ(ヘルスアセスメント)				
担当講師	専任教員 / 病院に看護師として 15 年勤務				
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 30 時間		
授業目標	1. 対象の健康状態を評価する意義と方法を理解する。 2. フィジカルアセスメントの基本技術を習得する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1		1. ヘルスアセスメントの意義・目的 2. 一般状態の観察	講義	
	2		バイタルサインの測定、フローシートへの記録 1. 体温 2. 脈拍	講義	バイタルサイン測定、フローシートへの記録
	3		3. 呼吸 4. 血圧 5. 意識状態	講義 演習	技術試験まで自己練習
	4		バイタルサイン測定の実際	演習	
	5		事例に基づいたバイタルサイン測定法の実施(演習チェック) 血圧測定(聴診法)の実際 バイタルサインプレテスト	演習	演習チェック後の振り返り
	6		バイタルサイン技術試験	試験	技術試験後の振り返り
	7		1. 身体計測 体格 運動機能のアセスメント	講義	
	8		1. 心理・社会的状態のアセスメント 2. セルフケア能力のアセスメント	講義	
	9	解剖生理学	1. フィジカルアセスメントの基礎知識(進め方/実施方法/必要物品) 2. フィジカルアセスメントの基本技術(視診/触診/打診/聴診/問診) 3. 体表面のアセスメント【皮膚・爪・リンパ・甲状腺】	講義 演習	演習後の振り返り
	10	解剖生理学	【眼のアセスメント】眼底の視診 【耳のアセスメント】鼓膜の観察 体表面のフィジカルアセスメントの実際	講義 演習	演習後の振り返り
	11	解剖生理学	【肺(呼吸器系)のアセスメント】 問診 視診(前胸部/背面/側面) 触診(胸郭拡張度/音声伝導) 打診(背面打診/横隔膜の呼吸性移動の確認) 聴診(正常呼吸音/異常呼吸音)	講義 演習	演習後の振り返り
	12	解剖生理学	【腹部のアセスメント】 問診 触診 打診 聴診(腸蠕動音) 呼吸器系、眼のフィジカルアセスメントの実際	講義 演習	演習後の振り返り
	13	解剖生理学	【心臓血管系のアセスメント】 問診 視診(前胸部/チアノーゼ/心尖拍動) 触診(心尖拍動) 聴診(I 音・II 音/異常心音)	講義 演習	演習後の振り返り
	14	講義内容の復習	1. フィジカルアセスメントモデルを使用した総合演習(呼吸音・心音の聴取/腸蠕動音の聴取) 2. 検眼鏡・耳鏡を用いた視診	演習	演習後の振り返り
15		終講試験 まとめ			
テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護学技術 I, メチカルフレンド社 2. 任和子/秋山智弥【編集】:根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 3. ヴァージニア・ヘンダーソン著:看護の基本となるもの.日本看護協会出版会				
参考文献	レビューブック, MEDIC MEDIA 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院				
使用教材	聴診器、水銀レス血圧計、電子血圧計、体温計、診断機器、フィジコさん				
授業方法	講義・演習を中心として行う				
評価方法	筆記試験(70 点)、技術試験(20 点)、課題点(10 点)で評価する 課題提出期限内に課題を提出できなかった場合は、総合点より 3 点減点とする				
履修上のアドバイス	解剖生理学を復習しながら進めていくため、事前学習を計画的に行い授業に臨むこと バイタルサインの測定は技術試験があるため、グループで練習に取り組むこと				





授業科目	基礎看護学技術Ⅳ（環境、活動・休息、安楽）				
担当講師	専任教員 / 病院に看護師として14年勤務				
履修時期	1学年 前期	単位数・時間	1単位 30時間		
授業目標	1. 健康的な生活環境を整える意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。 2. 活動・休息の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。 3. 安楽を確保する意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1		1. 環境の諸要素とその調整	講義	
	2 3	DVD 視聴	2. 病室と病床の環境調整 1) ベッドメイキング	講義 演習	技術練習
	4	技術練習	2) ベッドメイキングの演習チェック	演習 <small>10分</small>	技術練習
	5	DVD 視聴	活動・休息の援助技術 1) 活動と休息 2) 活動のアセスメント 3) 運動機能の維持・回復のための援助	講義 演習	技術練習
	6 7	DVD 視聴	4) 運動機能の低下した人の援助 ①体位変換 ②車椅子・ストレッチャーでの移送 ③座位保持・起立動作の援助 ④歩行の援助	講義 演習	技術練習
	8	プレスト準備 技術練習	車椅子移動・移送の演習チェック	プレスト 演習 <small>10分</small>	技術練習 演習振り返り
	9	技術練習	車椅子移動・移送の技術試験	試験	技術練習
	10	DVD 視聴	3. リネン交換	講義 演習	技術練習
	11	プレスト準備 技術練習	臥床患者のリネン交換演習チェック	プレスト 演習 <small>10分</small>	技術練習 演習振り返り
	12		4. 安静保持の援助 5. 睡眠の援助	講義	
	13		6. 体温管理・保温の援助 1) 体温管理・保温の基礎知識 2) 冷罨法、温罨法 罨法演習チェック	講義 演習 <small>10分</small>	技術練習
	14	技術練習	臥床患者のリネン交換の技術試験	試験	試験振り返り
	15		終講試験	試験	
	テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メチカルフレンド社 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会			
参考文献	レビューブック, MEDIC MEDIA 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学, 医学書院 イラストでまなぶ生理学				
使用教材	1. リネン一式 2. 車椅子、ストレッチャー 3. 氷枕、湯たんぽ				
授業方法	講義、演習				
評価方法	筆記試験（50点）、技術試験（40点）、課題（10点）で評価する 課題提出期限内に提出できなかった場合は総合点から3点減点とする				
履修上の アドバイス	授業方法は、講義と技術演習が中心なので、教室と実習室を使用しての授業になります。スムーズに技術演習ができるよう、事前学習や課題に取り組み、準備をして臨みましょう。また、技術の習得には自己学習（何度も練習すること）が必須です。空き時間を有効に使い計画的にグループメンバーで協力して行いましょう。				



専門分野 I

授業科目	基礎看護学技術 V (食生活・排泄)				
担当講師	専任教員 / 病院に看護師として 14 年勤務				
履修時期	1 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30 時間		
授業目標	1. 食事の意義を理解し、栄養状態を整えるための基本的な援助技術を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、基本的な援助技術を習得する。				
授業計画		事前学習	内容	方法	事後学習
	1	消化吸収のメカニズム	1. 食事と栄養摂取 食事・栄養摂取の意義としくみ 2. 食事・栄養摂取のアセスメント	講義	自己の食事内容の評価 援助計画の修正 援助計画実施と評価
	2	食事介助の方法 * 病院食は栄養学で学ぶ	3. 食生活の基本的援助 食べるための機能 食事の環境調整 4. 疾病時の食事の援助 嚥下障害、上肢の機能障害、 体位制限のある場合の援助	講義	
	3	食品その他必要物品の準備	食事介助の演習 事例に基づいた援助計画をグループで立案	講義 演習	
	4	解剖生理学 (鼻孔～外耳孔～ 剣状突起～胃)	5. 非経口栄養法 1) 経腸栄養(経管栄養・胃瘻栄養) 2) 中心静脈栄養、末梢静脈栄養法	講義 演習	
	5	食品その他必要物品の準備	食事介助の演習チェック * 事例に基づき援助計画に沿った食事介助	演習 チェック	
	6	自己の排泄の観察 * ポータルトイレの介助は在宅看護論で学ぶ	1. 排泄の意義 2. 排尿・排便のメカニズム 3. 排泄の基本的援助 トイレ/ポータルトイレ/差し込み便器/尿器	講義 演習	解剖生理学 まとめ
	7		4. 排泄援助の実際 おむつ交換	講義 演習	
	8	排尿障害は成人看護学で学ぶ	5. 排便障害と援助 便秘/下痢/便失禁 6. 排尿障害と援助	講義 演習	技術練習 演習後の振り返り
	9	持続的導尿の管理は成人看護学及び看護の統合と実践で学ぶ	7. 排泄に関する処置 1) 摘便・浣腸(グリセリン浣腸/高圧浣腸) 2) 導尿(一時的導尿/持続的導尿)	講義	
	10	技術練習	・おむつ交換の演習チェック	演習 チェック	
	11	DVD 視聴 技術練習	・グリセリン浣腸	演習	
	12	技術練習	・グリセリン浣腸の演習チェック	演習 チェック	
	13	DVD 視聴 技術練習	・一時的導尿 滅菌物の取り扱い	演習	
	14	技術練習	・一時的導尿/滅菌物の取り扱いの演習チェック	演習 チェック	
15		まとめ 終講試験			
テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護学技術Ⅱ, メチカルフレンド社 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 3. 看護の基本となるもの, 日本看護協会				
参考文献	レビューブック, MEDIC MEDIA 新体系看護学全書 人体の構造と機能 解剖生理学, メチカルフレンド社 イラストでまなぶ生理学, 医学書院				
使用教材	<食事>経管栄養シミュレーター <排泄>陰部モデル 導尿モデル等				
授業方法	講義、演習、演習チェック				
評価方法	筆記試験(90点)、課題点(10点)で評価する *課題提出期限内に提出できなかった場合は総合点より3点減点とする				
履修上のアドバイス	講義と演習が中心なので、教室と実習室を使用しての授業になります。スムーズに技術演習ができるよう、事前学習や課題に取り組み、準備をして臨みましょう。また、技術の習得には自己学習(何度も練習すること)が必須です。空き時間を有効に使い計画的にグループで協力して行いましょう。				



授業科目	基礎看護学技術Ⅵ（清潔、衣生活）					
担当教員	専任教員① / 病院に看護師として26年勤務 専任教員② / 病院に助産師として14年勤務					
履修時期	1学年 前～後期	単位数・時間	1単位 30時間			
授業目標	1. 清潔の意義と衣生活を理解し、基本的な援助技術を習得する。					
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習
	1	講義資料予習	身体の清潔の援助の意義と目的	講義	教員①	
	2	DVD 視聴	入浴・シャワー浴、部分浴 (手浴、足浴、陰部の清潔)の目的と援助	講義		技術練習
	3	DVD 視聴	陰部洗浄・手浴・足浴演習	演習		技術練習
	4	技術練習	手浴・足浴演習チェック *陰部洗浄はおむつ交換技術と一緒に実施	演習		演習チェック 振り返り
	5	DVD 視聴	衣生活の援助の意義と目的 寝衣交換の援助 全身清拭の目的と援助	講義		技術練習
	6	技術練習	全身清拭・寝衣交換演習	演習		援助計画の 立案
	7	技術練習 プレート準備	全身清拭・寝衣交換演習チェック 全身清拭・寝衣交換プレートテスト	演習 プレートテスト		演習チェック 振り返り
	8	技術練習	全身清拭・寝衣交換技術試験	技術試験		援助計画評価 技術試験 振り返り
	9	DVD 視聴	口腔の清潔の目的と援助	講義 演習	教員②	技術練習
	10	技術練習	口腔ケア演習チェック *食事介助技術と一緒に実施	演習		演習チェック 振り返り
	11	DVD 視聴	頭皮の清潔の目的と援助 洗髪演習（洗髪車、洗髪プール）	講義 演習		技術練習
	12	技術練習	洗髪演習	演習		技術練習
	13	技術練習 プレート準備	洗髪演習チェック 洗髪プレートテスト	演習 プレート		演習チェック 振り返り
	14	技術練習	洗髪技術試験	技術試験		技術試験 振り返り
15		筆記試験・まとめ	試験	教員 ①②		
テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メチカルフレンド社 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院 3. 看護の基本となるもの, 日本看護協会出版会 4. イラストでまなぶ生理学, 医学書院					
使用教材	<洗髪>八重さん、洗髪車、洗髪プール      <陰部洗浄>女性陰部モデル <口腔ケア>口腔ケアモデル      <全身清拭・寝衣交換>八重さん					
授業方法	講義・演習形式、演習チェックを行う					
評価方法	筆記試験（60点）、技術試験（40点） 課題提出期限内に提出できなかった場合は総合点から3点減点とする					
履修上の アドバイス	授業方法は、講義と技術演習が中心なので、教室と実習室を使用しての授業になります。スムーズに技術演習ができるよう、事前学習や課題に取り組み、準備をして臨みましょう。また、技術の習得には自己学習（何度も練習すること）が必須です。空き時間を有効に使い計画的にグループメンバーで協力して行いましょう。					



授業科目	基礎看護学技術Ⅶ（与薬・採血・輸血）						
担当講師	専任教員① / 病院に看護師として 15 年勤務			専任教員② / 病院に看護師として 15 年勤務			
履修時期	1 学年 後期		単位数・時間	1 単位 30 時間			
授業目標	1. 与薬・採血における意義目的を理解し、基本的な援助技術を習得する。						
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習	
	1		I. 与薬に関する基礎知識 1. 与薬と看護 2. 与薬の基礎知識	講義	教員②		
	2		3. 薬物療法を受ける患者の援助 4. 薬剤の管理	講義			
	3	DVD 視聴	II. 各与薬の援助方法 1. 経口与薬 2. 外用薬の皮膚・粘膜適用 【演習】薬の確認/ 薬包のカット/ 液状剤の与薬/ オブラーの使用法	講義 演習			
	4	DVD 視聴	3. 点眼・点入法 4. 吸入法 5. 点鼻・点耳法 【演習】坐薬挿入(モデル)/ネブライザー	講義 演習			
	5	事前 課題	III. 注射法 1. 注射法の基礎知識 【演習】注射器・針の取り扱い方/アンプルカット/ 薬液(アンプル・バイアル)の吸い上げ方	講義 演習	教員①	注射器・針の 取り扱い/薬 液の吸い上げ 方の技術練 習・確認	
	6 7	DVD 視聴	2. 皮下注射 3. 皮内注射 4. 筋肉内注射 【演習】部位選定/ 注射の実際 (モデル)	講義 演習		注射部位の確 認/各注射法 技術練習	
	8 9	DVD 視聴	1. 静脈内注射 2. 点滴静脈内注射 【演習】部位選定/ 脈血帯の使い方/ 輸液セット・ 三方活栓の使い方/注射の実際(モデル)/ 固定法 /速度調節/ポンプの使い方	講義 演習		各注射法技術 練習/ 滴下数 計算課題	
	10 11	DVD 視聴	1. 採血 1) 検査の種類 2) 採血の種類 【演習】 部位選定/採血材料による静脈血採血	講義 演習		採血技術練習	
	12	DVD 視聴	1. シリンジポンプ・輸液ポンプの使い方 【演習】ポンプの使い方/観察	講義 演習			
	13	DVD 視聴	1. 輸血療法 1) 目的 2) 種類・適応 3) 副作用 4) 手順 【演習】輸血セットの取り扱い方	講義 演習	教員②		
	14		【演習チェック】 筋肉内注射/ 静脈血採血	演習 C	教員①	演習 C 後の振 り返り	
	15		終講試験、まとめ	試験	教員①②		
	テキスト	1. 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メチカルフレンド社 2. 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院					
	参考文献	レビューブック, MEDIC MEDIA					
使用教材	<採血>静脈採血注射モデル、かんたんくん、装着式採血シミュレーター <注射>装着式筋注パッド、きんちゅうくん、でんちゅうくん、筋肉注射モデル、殿筋注射説明模型、殿部 筋肉内注射モデル						
授業方法	講義、演習、演習チェック						
評価方法	終講試験 (90 点)、課題の提出状況 (10 点) 課題提出忘れは総合点から 3 点減点とする						
履修上の アドバイス	授業方法は、講義と技術演習が中心なので、教室と実習室を使用しての授業になります。スムーズに技術 演習ができるよう、事前学習や課題に取り組み、準備をして臨みましょう。 また、技術の習得には自己学習(何度も練習すること)が必須です。空き時間を有効に使い計画的にグループ メンバーで協力して行いましょう。特にこの技術は、間違るとそのまま医療事故につながる取り返しのつか ない技術であることを認識し、正しい知識と技術を身につけましょう。						





授業科目	看護研究 I		
担当講師	副学院長	病院に看護師として 13 年、看護管理者として 6 年勤務	
履修時期	2 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間
授業目標	1. 看護研究の意義や目的及び研究のプロセスを理解する。		
授業計画	回	内容	方法
	1	看護研究とは ○看護研究とは ○看護研究の目的 ○研究課題の明確化	講義 演習
	2	文献のクリティーク 看護研究のプロセス ○文献検索・文献検討 ○研究テーマの決定	講義 演習
	3	看護研究のプロセス ○研究計画書の作成	講義 演習
	4	看護研究のプロセス ○倫理的配慮	講義 演習
	5	看護研究のプロセス ○看護研究の種類 ○データの収集方法	講義 演習
	6	看護研究のプロセス ○データの分析方法	講義 演習
	7	看護研究のプロセス ○抄録・論文の構成と書き方 ○研究成果のまとめ	講義 演習
	8	筆記試験 研究成果の発表	
テキスト	前田樹海：はじめての看護研究，ナツメ社。		
参考文献	高谷修：看護学生のためのレポート・論文の書き方，金芳堂。 足立はる系：看護研究サポートブック（改訂 4 版），メディカ出版。 及川慶浩：はじめての看護研究～計画書の書き方編～，メディカ出版。 及川慶浩：はじめての看護研究～統計学編～，メディカ出版 及川慶浩：はじめての看護研究～アンケート調査編～，メディカ出版。 及川慶浩：らくらく統計ナース Expert，メディカ出版。		
授業方法	講義・演習形式		
評価方法	筆記試験 50 点 演習および事前準備：50 点 (事前課題 2 点 研究計画書・同意書 13 点 発表 35 点)		
履修上の アドバイス	看護研究は専門職として行うことが求められており、卒業後に臨床で活用していくものです。そのため、看護研究に必要な基礎的知識や基礎的技術は看護基礎教育において、習得しておく必要があります。 看護研究 II では、看護研究を実際に行い、看護研究 I で学んだ内容をもとに看護研究のプロセスを実際に経験します。そのため、看護研究 I では講義を受けるにあたり、事前学習と事後学習を確実にを行う必要があります。		



授業科目	看護研究 II				
担当講師	教務主任 / 病院に看護師として 14 年勤務				
履修時期	3 学年 前期	単位数・時間	1 単位 30 時間		
授業目標	1. 研究プロセスに沿って調査研究を実施する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1	文献検索の方法	講義・演習オリエンテーション 看護研究プロセス ・ 文献検索・文献検討	講義 演習	
	2		看護研究プロセス ・ 文献検索・文献検討 ・ 研究テーマの決定	演習	
	3 4		看護研究プロセス ・ 研究計画書作成	演習	
	5 ～ 12		看護研究のプロセス ・ 質問紙作成 ・ 施設への依頼文書作成 ・ 個人への依頼文書作成 ・ データ収集 ・ データ分析 ・ 抄録作成 ・ 論文作成	演習	
	13 14		看護研究のプロセス ・ パワーポイント作成 ・ 発表原稿の作成 ・ 論文作成	演習	
	15		看護研究のプロセス ・ 発表会	公開 授業	
	テキスト	前田樹海：はじめての看護研究，ナツメ社。			
参考文献	古橋洋子：基本がわかる看護研究ビギナーズ NOTE，学研				
授業方法	講義・演習形式				
評価方法	研究プロセスについて(ループ・個人)評価表(100 点)にもとづき評価を行う。				
履修上の アドバイス	看護研究は専門職として必要不可欠なものです。看護研究 II は、看護研究 I で学んだ内容を基盤として、実際に研究プロセスを経験していきます。看護研究 I で研究に必要な知識・技術を学んでいるため、看護研究 II を学ぶ前に看護研究 I で学んだ内容の振り返りをしておくことが重要になります。看護研究 II はグループごとの演習を中心に進めていきます。グループメンバーの一員として積極的に参加しましょう。				



授業科目	成人看護学対象論				
担当講師	専任教員 / 病院に看護師として15年勤務				
履修時期	1学年 前期	単位数・時間	1単位 15時間		
授業目標	1. 成人期にある対象を身体的、心理・社会・霊的側面から理解する。 2. 成人保健の動向から成人期における健康上の問題を理解する。 3. 成人期にある対象の生活と健康を守るシステムについて理解する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1	事前課題 プリント提出	1. 成人看護の対象 1) ライフサイクルからみた成人期 2) 身体的・心理的・社会的・霊的側面	講義	
	2	テキスト 「第1章成人と生活」の熟読	2. 成人各期の特徴と発達課題 1) 青年期の特徴と発達課題 2) 壮年期の特徴と発達課題 3) 向老期の特徴と発達課題	講義 GW	各期の特徴の復習
	3 4	テキスト 「第2章A」を読む	3. 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 1) 成人期における生活の特徴 2) 家族の発達課題と問題 3) 成人を取り巻く環境 4) 成人のライフスタイルと健康の状況	講義 GW	事前課題 プリントの追加・修正
	5	テキスト 「第2章B」を読む	4. 生活と健康をまもりはぐくむシステム 1) 保健・医療・福祉システムの概要 2) 保健・医療・福祉システムの連携	講義 GW	
	6 7	テキストに登場する患者事例を読む	5. 成人各期にある事例の特徴に応じた看護	GW 発表	
	8		終講試験		
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院			
参考文献	国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計 平成30年国民健康・栄養調査 厚生労働省 レビューブック MEDIC MEDIA				
授業方法	講義・GWを中心に行う				
評価方法	筆記試験90点 課題プリント10点（期限内に提出できない場合は減点） 合計100点で評価する ＊課題プリントは下記の通り 成人期の生活・健康の動向（指定の用紙あり）				
履修上のアドバイス	成人期にある対象の理解は、自分自身を振り返ることや身近な両親や祖父母をもとに考えることで理解を深めましょう。 看護学概論・人間発達学・関係法規・現代医療論で学んだ看護の対象と関連させながら、テキストを熟読して講義に臨んでください。				



授業科目	老年看護学対象論				
担当講師	教務主任 / 病院に看護師として14年勤務				
履修時期	1学年 後期	単位数・時間	1単位 15時間		
授業目標	1. 老年期にある対象を身体的・心理的・社会的・霊的側面から理解する。 2. 保健・医療・福祉の動向から老年期における課題を理解する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1		老年期の理解 1. ライフサイクル 老年期の定義・意義/加齢と老化 2. 老いることへの理解	講義 GW	
	2		人口学的指標からみた老年期の理解 1. 我が国の高齢化 2. 高齢者のいる世帯 3. 高齢者の健康状態 4. 高齢者の死亡 5. 高齢者の暮らし	講義 GW	
	3		ライフサイクルからみた老年期 1. 加齢変化 1) 身体的側面の変化 2) 心理的側面の変化 3) 社会的側面の変化 2. 老年期の発達課題	講義	ワークシートのまとめ
	4		高齢者疑似体験 身体活動の変化/手指の巧緻性の低下/ 視力・聴力の変化 日常生活への変化/事故の危険性/心理面の理解	演習	ワークシートのまとめ
	5		身体の高齢変化とアセスメント 視覚変化/聴覚変化/感覚機能変化/循環機能変化/呼吸機能変化/消化機能変化/ホルモンの変化/泌尿器・生殖器の変化/運動機能変化/比較的維持できる機能	講義 GW	
	6		地域で暮らす高齢者の理解 1) 模擬患者とのコミュニケーション 他	演習	ワークシートのまとめ
	7		1. 高齢者の心理的喪失 2. DVD鑑賞「笑顔をありがとう」 3. 大切にしたい高齢者看護	講義	ワークシート提出
	8		筆記試験		
テキスト	1. 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学,医学書院 2. 国民衛生の動向 2020/2021,厚生労働統計協会(8~9月発行)				
参考文献					
授業方法	講義・GW・演習				
評価方法	筆記試験 90点、課題 10点 課題提出期限内に課題を提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする				
履修上のアドバイス	今のみなさんにとって「年をとる」ということはイメージがわきにくく想像もつかないことかもしれません。特に、高齢者との生活体験が少ない皆さんは対象を理解することが難しいと思います。グループワークや体験から少しでも対象が理解でき、看護に結びつけることができるよう一緒に学びましょう。				





授業科目	老年看護学目的論					
担当講師	教務主任 / 病院に看護師として14年勤務					
履修時期	1学年 後期		単位数・時間	1単位 15時間		
授業目標	1. 老年期における健康上の課題と看護の役割を理解する。 2. 高齢社会における保健・医療・福祉のサポートシステムと看護の役割を理解する。					
授業計画	回	事前学習	内容	事後学習	方法	
	1		1. 老年看護の基盤 1) 老年看護の定義 2) 老年看護の役割 (1) 注目すべき4つの側面 (2) 老年看護の特徴 (3) 理論・理念の活用		講義 GW	
	2		1. 老年看護の倫理① 1) 高齢者差別 エイジズム/権利擁護(アドボカシー) 2) 高齢者虐待		講義 GW	
	3		1. 老年看護の倫理② 1) 安全管理と身体拘束 2) 権利擁護のための制度 成年後見制度/日常生活自立支援事業	身体拘束についての自己の考え	講義 GW	
	4		1. 生活・療養の場における看護の展開 1) 介護保険制度 2) 保健医療福祉施設における看護 (1) 療養生活を支える保健医療福祉施設の特徴と看護			
	5		高齢者を包括的・継続的に支援する活動 地域包括ケアシステム		講義	
	6 7		1. 介護保険・医療保険と老年看護 1) 高齢者の施設サービス (1) 介護療養型医療施設の特徴 (2) 介護老人保健施設の特徴 (3) 介護老人福祉施設の特徴 (4) 通所介護施設の特徴 2. 介護保険・医療保険と老年看護 2) 高齢者の居宅サービス (1) 認知症対応型共同生活介護(認知症高齢者グループホーム)の特徴 (2) 小規模多機能型居宅介護の特徴		講義 GW	
	8		終講試験			
	テキスト	1. 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学, 医学書院 2. 国民衛生の動向 2020/2021, 厚生労働統計協会(8~9月発行)				
参考文献	1. 令和元年度版 高齢社会白書, 内閣府 2. 保険と年金の動向, 厚生労働統計協会 3. パット・ムーア: 変装, 朝日出版社 * 他随時紹介					
授業方法	講義・GW					
評価方法	筆記試験 90点、課題レポート・プレゼン 10点 課題提出期限内に課題を提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする					
履修上のアドバイス	日本は先進諸国の中でも類をみない速さで超高齢化に突入しており、それに伴う諸問題に対する国民の関心は高まっています。そこで、保健・医療・福祉の連携の必要性と課題・対策及び看護師の役割について学びましょう。					



授業科目	老年看護学援助論Ⅰ（高齢者の健康と生活）						
担当講師	教務主任/病院に看護師として14年勤務			専任教員/病院に看護師として15年勤務			
履修時期	2学年 前期		単位数・時間	1単位 30時間			
授業目標	1. 老年期にある対象の健康維持のための日常生活の援助方法を理解する。 2. 老年看護の実践に必要な基礎看護技術を習得する。						
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習	
	1		高齢者の生活を支える看護 1) 高齢者の生活アセスメント 総合機能評価(CGA)/基本的日常生活動作(BADL)/手段的日常生活動作(IADL)/心理・情緒機能/生活環境/フレイル	講義	主任		
	2	コミュニケーションの復習	2) コミュニケーション コミュニケーション能力のアセスメント/コミュニケーションを阻害する影響要因のアセスメント(視覚障害・聴覚障害・言語障害)/高齢者とのコミュニケーションの方法	講義	主任		
	3	歩行・移動への援助の復習	3) 歩行・移動の援助 歩行・移動動作のアセスメント/歩行・移動動作の援助/運動麻痺のある対象者の移動援助/転倒の影響/転倒発生の要因/転倒予防 <b>*歩行介助の実際</b>	講義 演習	教員		
	4	食生活への復習	4) 食生活と摂食・嚥下障害の援助 食生活のアセスメント/嚥下能力、嗜好性、環境をふまえた食生活の援助/嚥下障害のある対象者の食事の援助	講義 演習	教員		
	5		5) 低栄養・脱水症の看護 加齢による脱水症の病態と要因/脱水症予防の援助/多職種との協働による栄養管理	講義	教員		
	6 7	排泄の援助の復習	6) 排泄 排泄のアセスメント/排泄能力の変化に応じたケア用具を用いた援助/便秘・下痢の病態と要因/便秘・下痢の予防と援助 <b>*摘便(モデル人形を使用した演習)</b>	講義 演習	教員		
	8	清潔の援助の復習(陰部洗浄・おむつ交換)	7) 清潔と身だしなみ 清潔行為のアセスメント/更衣動作のアセスメント/入浴行動に伴う危険性、負担をふまえた援助/義歯のケア/衣生活の援助/掻痒症の予防と援助	講義	教員		
	9		おむつ交換の実際	演習	主任		
	10	活動・休息と睡眠への援助の復習	8) 活動と休息 活動と休息のアセスメント/生活リズムの調整/活動を高める援助(レクリエーション)/廃用症候群の病態と要因/廃用症候群予防のための援助/睡眠を促す援助	講義 演習	主任	レクリエーションの資料収集・企画書作成	
	11		9) 社会参加 社会参加のアセスメント/生きがいがもてる身近な場所への参加への援助 10) 性(セクシュアリティ) セクシュアリティのアセスメント/健康なセクシュアリティへの援助	講義	主任		
	12 13	事例を読み課題に取り組む	看護過程の展開1 1) 事例に基づいた展開① (情報の整理・アセスメント・関連図)	演習	主任	指定用紙まとめ	
	14		レクリエーションの実際 *仮設デイサービスセンター設置 *模擬患者参加	演習	主任	演習シートまとめ	
	15		筆記試験(50分)			主任・教員	
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学, 医学書院 任和子/秋山智弥【編集】:根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院					
参考文献	福地義之助:高齢者ケアマニュアル, 照林社 高木永子【監修】:看護過程に沿った対応看護 病態生理と看護のポイント, 学研 レビューブック, MEDIC MEDIA *その他随時紹介						
授業方法	講義・演習形式						
評価方法	筆記試験(90点)、課題レポート(10点)、合計100点で評価する。課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。						
履修上のアドバイス	高齢者は身体機能の低下や何らかの障害を持っているため、健康レベルを維持し生きがいを持ちながら生活できるよう援助する事が重要です。ここでは、1年次に学んだ高齢者疑似体験、基礎看護学技術を振り返り、加齢に伴う身体的機能の変化を踏まえた基本的な援助方法を学びましょう。						



授業科目	小児看護学対象論				
担当講師	専任教員 / 病院に看護師として26年勤務				
履修時期	1 学年 後期	単位数・時間	1 単位 15 時間		
授業目標	1. 小児看護の特徴を学び、小児看護の課題を理解する。 2. 小児各期の成長発達を理解する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1		1. 小児看護の特徴と理念 2. 小児看護の対象 3. 小児看護の目標 4. 子どもと家族の諸統計	講義 GW	
	2	倫理とは何か 自分の言葉で 説明できること	1. 子どもの権利 2. 小児看護において守られるべき権利 3. 医療現場で起こりやすい問題点と看護 4. 臓器移植法と子どもの権利	講義 GW	課題プリント
	3	解剖生理学	1. 子どもの成長発達の原則 1) 一般的原則 2) 発達の連続性 3) 影響する因子 2. 形態的成長 1) 身長・体重 2) 頭囲・胸囲 3) 骨 4) 生歯 5) 性成熟	講義	課題プリント
	4 5	解剖生理学	1. 機能的成長 1) 呼吸 2) 循環 3) 体温 4) 消化器 5) 体液生理 6) 神経系 7) 免疫	講義	
	6 7	人間発達学の 講義内容の復 習	1. 精神運動機能の発達 1) 粗大運動 2) 微細運動 3) 視覚・聴覚・嗅覚・味覚 2. 心理・社会的発達 1) 情緒愛着・言語・社会性 2) 認知・思考・記憶 3. 発達評価 4. 発達課題	講義 GW	課題プリント
	8		終講試験		
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論, 医学書院			
参考文献	山元恵子【監修】: 写真でわかる小児看護技術, インターメディカ レビューブック, MEDIC MEDIA				
授業方法	講義を中心に行う				
評価方法	筆記試験 (90点)、課題点 (10点) 課題提出期限内に課題を提出できなかった場合は、総合点より3点減点とする				
履修上の アドバイス	この講義は、1年次に学んだ多くの講義と関連が深い。特に人間発達学そして、形態的・機能的成長では「解剖生理学」の知識の確認をしながら講義をすすめていくため、関連した内容の復習をして臨んでほしい。子どもの統計については常に社会の動きに目を向けて、最新のデータをみておくこと。グループワークでは自ら学ぶ・調べる・疑問に思う姿勢をもって臨むこと。				



授業科目	小児看護学目的論				
担当講師	専任教員 / 病院に看護師として26年勤務				
履修時期	2学年 前期	単位数・時間	1単位 30時間		
授業目標	1. 小児の保健・福祉行政を学び、小児看護の役割と社会資源の活用を理解する。 2. 小児各期の日常生活を学び、その援助方法を理解する。 3. 子どもの健康障害の特性に応じた看護の方法を学び、小児基礎看護技術を習得する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1		1. 小児の養育と看護	講義	
	2		1)排泄 2)睡眠・休息 3)清潔 4)衣服の着脱		
	3		5)子どもの遊びの発達と援助		
	4		子どもの栄養/離乳/食育	講義	
	5		1. 小児と家族を取り巻く社会 2. 学童期に起こりやすい健康問題と援助 (食生活/食育/学校生活/子どもを取り巻く社会/問題行動と対応/児童福祉施設/学校保健) 3. 思春期の成長発達に応じた生活への支援	講義	
	6		1. 予防接種 2. ワクチンスケジュール	講義	ワクチンスケジュール
	7		1. 家族の特徴とアセスメント	講義 GW	
	8		1. 乳幼児の環境調整 2. 子どもに起こりやすい事故の特性と事故防止 3. 乳児期のヘルスアセスメント	講義 GW	事例のアセスメント
	9		1. 幼児期のヘルスアセスメント	講義 GW	事例のアセスメント
	10		1. 健康障害をもつ小児と家族の看護 2. 入院中の小児と家族の看護 3. 外来における小児と家族の看護	講義	
	11		1. ヘルスアセスメントに必要な技術 1) コミュニケーション技術/プレパレーション 2) バイタルサインの測定	講義 演習	
	12	看護技術のワークシートをまとめる	1. 小児の特徴を踏まえた看護技術 2. 検査処置を受ける小児と家族の看護	演習	
	13		1)バイタルサインの測定 2)フィジカルアセスメント/身体計測 3)吸引 4)吸入 5)酸素療法		
	14		6)経管栄養法 7)検体採取・抑制(採血/採尿/腰椎穿刺/骨髄穿刺) 8)与薬(経口与薬/点滴静脈内注射) 9)排泄の援助(綿棒刺激) 10)清潔の援助(陰部洗浄)		
15		筆記試験 50分			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 小児看護学①, 医学書院 山元恵子【監修】: 写真でわかる小児看護技術, インターメディカ 厚生労働統計協会: 国民衛生の動向, 厚生労働統計協会				
参考文献					
授業方法	講義・GW・演習				
評価方法	筆記試験(90点)、課題レポート(10点)、合計100点で評価する。課題提出期限内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。				
履修上のアドバイス	小児看護の対象を理解した上で、実際の看護について学ぶ。復習した上で授業に臨みましょう。				





授業科目	母性看護学対象論				
担当講師	専任教員 / 病院に助産師として14年勤務				
履修時期	1学年 後期	単位数・時間	1単位 15時間		
授業目標	1. 母性の意義と特性について理解する。 2. 女性のライフサイクルにおける特徴を理解する。 3. 母性看護の対象を取り巻く現状と課題を理解する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1		母性看護の基盤となる概念 1. 母性とは ・親になることと母性 ・母性の身体的特性 ・母性の心理・社会的特性 ・母性看護における母性	講義	定義に関する確認
	2		母性看護の基盤となる概念 1. 母子関係と家族発達 ・愛着・母子相互作用と母子関係形成	講義	定義に関する確認
	3		母性看護の基盤となる概念 1. セクシュアリティ（人間の性） ・セクシュアリティとは ・セクシュアリティの発達と課題 2. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	講義	定義に関する確認
	4 5		母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1. 母性看護の対象を取り巻く環境 ・家族 ・地域社会 ・生物学的環境 ・社会文化的環境	講義 GW	
	6 7	女性生殖器の解剖生理について復習	母性看護の対象理解 1. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 ・生殖器の形態・機能 ・妊娠と胎児の性分化	講義	
	8		筆記試験（50分）		
	テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論, 医学書院.			
参考文献	国民衛生の動向 2019/2020, 厚生労働統計協会, 医療情報科学研究所[編]:病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科, メディックメディア.				
授業方法	講義・GW				
評価方法	筆記試験 90点 課題プリント 10点 (期限内に提出できない場合は減点) 合計 100点で評価する				
履修上のアドバイス	母性(父性)とは何かを考え、母性看護の対象は女性だけでなく、そのパートナーや家族も含まれることを理解します。母性看護の対象を理解し、援助に結びつけることができるように授業をすすめていきます。また、自分たちに関連する身近な問題に関する情報を収集し、捉えることができるようグループワークを通して学びを深めます。母性看護の対象に自ら(学生自身)も含まれていることを意識し、講義に臨みましょう。				



授業科目	精神看護学対象論				
担当講師	専任教員 / 病院に保健師として7年勤務				
履修時期	2学年 前期	単位数・時間	1単位 15時間		
授業目標	1. 精神の構造と機能について理解する。 2. 精神看護とその対象について理解する。 3. 精神の健康問題を理解する。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1	シラバスの確認 カリキュラム構造図のチェック	1. 精神看護とは 2. 精神看護の対象 3. 精神看護学とは 4. 心のケアと現代社会	講義	
	2	テキスト精神看護の基礎「不安と防衛」について読む	5. 精神の健康とは 6. 人間の心のはたらき 1) 心の活動 2) 人格の発達 3) 防衛機制	講義	人間の心の働きと防衛機制についてまとめる
	3	既習した人間発達学の「ライフサイクルと発達」について復習する	4) 危機理論とストレス理論 5) ストレスへの対処 6) 心的外傷 7) 危機を乗り越えるための支援と力	講義	
	4		7. 日常生活における危機 8. 災害時地域精神保健医療活動 1) 災害時の精神保健医療活動 2) 災害時の精神保健初期対応	講義	それぞれの場における精神問題についてまとめる
	5		9. 全体としての家族 1) 家族の多様性 2) 家族の役割関係 3) システムとしての家族 4) 家族への介入と支援	講義	
	6		10. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 1) 感情労働としての看護 2) 看護師の感情ワーク 3) 看護における共感と感情労働の代償 4) 感情労働を生きのびるために	講義	
	7	公衆衛生学「公衆衛生活動」「保健行政」を復習する	11. 精神保健医療に関する社会資源 1) 精神保健福祉サービスの実際 2) 精神保健福祉センターの役割 3) 保健所の役割 4) 市町村の役割 12. 心の健康に関する普及啓発	講義	精神保健福祉に関する各組織の役割や活動内容、国の施策についてまとめる
	8		筆記試験 (50分)		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学①, 医学書院 厚生労働統計協会：国民衛生の動向, 厚生労働統計協会				
参考文献	梅本堯夫：心理学 心のはたらきを知る, サイエンス社 太田保之/藤田長太郎【編】：精神看護学 精神保健 第3版, 医歯薬出版				
授業方法	講義中心				
評価方法	終講後に筆記試験(100点)を実施する。				
履修上のアドバイス	1. これまでの自分や自分の生活を結びつけて考え理解を深める。 2. 新聞やニュースで報道される精神の問題や精神保健福祉の動向について興味・関心を寄せ、そこから自己の考えたことを整理しておく。				



授業科目	在宅看護論対象論				
担当講師	専任教員 / 訪問看護ステーションに看護師として6年、病院で10年勤務				
履修時期	2学年 前期	単位数・時間	1単位 15時間		
授業目標	1. 在宅における療養者と家族、地域社会について説明できる。				
授業計画	回	事前学習	内容	方法	事後学習
	1		1. 在宅看護とはなにか 1) 在宅看護論誕生の背景 2) 公衆衛生看護学からの変遷 3) 在宅ケア		
	2	「国民衛生の動向」より年齢別人口、死因、医療費の動向を確認	1. 在宅看護の背景 1) 在宅看護に対する社会のニーズの高まりの背景	講義 GW	人口動態のまとめ
	3		1. 在宅看護の背景 2. 在宅療養者の権利保障 1) 個人の尊厳 2) 自己決定権 3) 個人情報の保護 4) 成年後見 5) 虐待の防止	講義	基本的人権、個人情報、成年後見、高齢者虐待のまとめ
	4	難病	1. 訪問看護の対象者 1) 高齢者の理解 2) 認知症 3) 難病 4) 小児	講義	
	5	既習科目の家族について	1. 家族の理解 1) わが国における家族の変遷 2) 現在のわが国の家族の特徴 3) 新しい家族への転換 2. 看護学における家族の定義	講義	
	6		1. 理論を用いた家族の捉え方 1) 家族システム理論 2) 家族発達理論 3) 家族ストレス対処理論	講義	事例のアセスメント
	7		1. 高齢者を介護する家族の理解 1) 在宅看護の対象者としての家族 2) 家族の捉え方 3) 家族アセスメント 2. 地域社会の理解	講義	
	8		筆記試験 (50分)		
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論, 医学書院				
参考文献	押川眞喜子【監修】: 写真で分かる訪問看護, インターメディカ 国民衛生の動向				
授業方法	講義・GW				
評価方法	筆記試験 (100点) で評価する。				
履修上のアドバイス	在宅医療のニーズが高まり、看護の場が広がっています。療養者は、入院中の患者のとらえ方とどのような違いがあるのか、なぜ家族を理解する必要があるのか考えながら臨みましょう。				



授業科目	看護技術総合評価						
担当講師	専任教員①/病院に看護師として15年勤務・専任教員②/病院に看護師として14年勤務 専任教員③ / 病院に看護師として15年勤務						
履修時期	3学年 後期		単位数・時間	2単位 30時間			
授業目標	1. 既習の知識・技術を統合し、対象の状態に応じた安全・安楽な援助技術を習得する。						
授業計画	回	事前学習	内容	方法	担当	事後学習	
	1		1. 演習のねらい、演習方法、事例紹介 プレテスト	プレテスト	教員①	技術練習	
	2 3	DVD視聴 技術練習	経管栄養法 1. チューブ挿入 2. 栄養剤の注入 3. 注入前・後の管理	技術試験	教員② ③	振り返り	
	4 5	DVD視聴 技術練習	膀胱留置カテーテル法 1. 膀胱留置カテーテルの挿入 2. 膀胱留置カテーテル挿入中の管理	技術試験	教員② ③	振り返り	
	6 7	DVD視聴 技術練習	輸液ライン等が入っている患者の寝衣交換 1. 事例に沿った寝衣交換	技術試験	教員② ③	振り返り	
	8 9	DVD視聴 BLS/ALS 事前レポート	救急時のケア 1. 気道確保 2. 人工呼吸 3. 胸骨圧迫心臓マッサージ 4. AED操作	演習 チェック	教員③	振り返り	
	10 11	DVD視聴	点滴静脈内注射 1. 留置針の穿刺 2. 滴下中の管理	技術試験	教員②	振り返り	
	12		多重課題への対処 1) 多重課題に対するキーワード 2) 多重課題発生時の対処の原則	講義	教員①		
	13		多床室における検温 ～ペーパーシミュレーション～	演習 GW	教員①	ワークの振り返り	
	14 15	ペーパーシ ミュレーシ ョンの確認	多床室における検温 実技発表 シミュレーション デブリーフィング まとめ	演習	教員①		
	テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ, メチカルフレンド社 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院					
	参考文献	《DVD》安全で確かな与薬① (インターメディカ) 急変時のアセスメントと看護 (インターメディカ)					
	授業方法	講義・演習形式、演習チェック					
	評価方法	4つの技術項目について、それぞれ技術試験を行う。技術試験の配点は、プレテスト10点・ 技術の実際90点。各技術試験の平均点数が評価点となる。 また、課題提出期間内に提出できなかった場合は、総合点から3点減点とする。					
履修上の アドバイス	臨地実習で積極的に技術見学・実施の経験を積み、この科目に臨みましょう。 各技術は、DVD視聴、技術練習を事前学習とし、計画的にグループ内で協力して取り組みま しょう。						